

**教職経験6年目研修
(教諭)**

年間計画

目 次 (年間計画)

6年目研修の目的	33
校内指導体制	34
研修内容	35
4月	
教職経験6年目研修を受講することを確認する	36
教職経験6年目研修(教諭)についての事前調査に回答する	36
4月～5月	
6年目研修チームづくり	37
第I回教育センター研修	37
5月～1月	
校内研究授業・研究協議(授業研究会)への参加	38
5月～6月	
課題研究構想メモ[様式1]を作成する	39
課題研究の校内構想発表を行う	39
6月～7月	
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う	40
課題研究構想メモ[様式1]を修正し、第III回教育センター研修の資料を整える	40
課題研究構想メモ[様式1]及び学習指導案を教育センターへ提出する	40
6月～8月	
第II回教育センター研修	41
「オンデマンド研修」校内研修発表を行う	41
第2回校内研究授業に向けて、教材研究を行う	42
第III回教育センター研修	42
8月～11月	
課題研究レポート(校内中間発表用)[参考様式1]を作成する	43
課題研究の校内中間発表を行う	43
教職経験6年目研修における実施状況についてのアンケートに回答する	43
8月～1月	
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う	44
12月～2月	
課題研究レポート成果発表用[様式3]を作成し、教育センターに提出する	44
課題研究の校内成果発表を行う	44
2月	
第IV回教育センター研修	45
教職経験6年目研修 報告書[様式4]を作成し、教育センターに提出する	45

6年目研修の目的

さあ、教師としての「探究・発展期」がスタートしました。そのスタートにあたり、今年度は6年目研修で自己の資質能力をさらに高めましょう。

《6年目研修ではどんな力を高めるの?》



6年目研修は、1年間の実践的研修を通して、以下の3つの力を高めることを目的として行います。

- ・得意分野を開発・探究する力
- ・児童生徒等の理解と適切に対応する力
- ・組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学校課題に対応する力

・「一つの道を極めた者は全ての道に通じる」という言葉があります。自分の得意分野での授業研究を深め、探究していくことは、今後の教科指導(特に小学校は複数教科の指導)に生かされることになります。

・これまでの5年間、1時間1時間の授業に一生懸命取り組んでこられたことと思います。その授業を振り返ってみたとき、児童生徒の実態を踏まえた授業ができていたでしょうか。児童生徒が身に付けている資質・能力を把握し、その資質・能力をさらに伸ばすことができる授業を展開したいものですね。



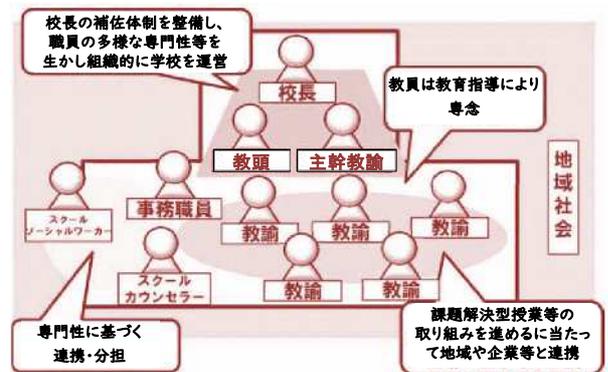
・担任(担当)だけで学級経営をすることはできません。また、学校課題に目を向けないまま教育活動を進めることもできません。学校組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学級経営・学校運営に関わることで、子どもたちの成長があり、学校課題の解決につながっていきます。

これら3つの力を6年目研修を通して、身に付けます。

校内指導体制

「チームとしての学校」をつくり上げていくことが大切だと言われています。学校の教育活動を展開していくためには、教職員をはじめ多様な専門性をもつ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携・分担して行うことが求められています。

チームとしての学校とは、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、児童生徒等が必要な資質・能力を確実に身に付けることができる学校なのです。したがって、6年目研修においても、対象者一人ががんばるのではなく、チーム学校として連携し、対象者を支え、教職員が互いの資質能力を向上できるようにしていくことが、これからの学校教育を展開していくうえでも大切なのです。



6年目研修における校内指導体制

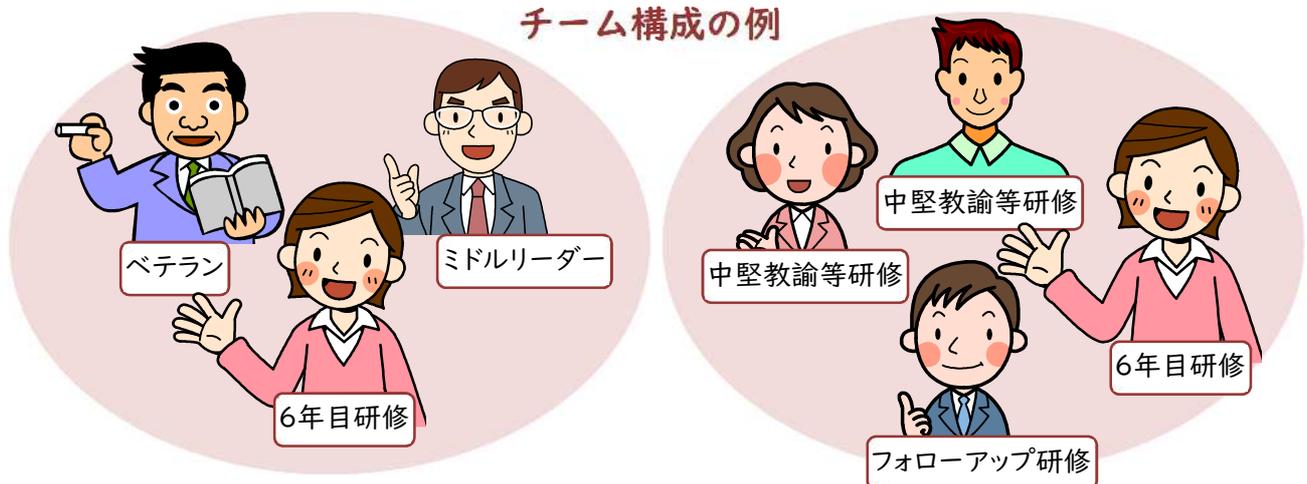
【校長】

- ・学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行う。
- ・対象者が本研修を実施するにあたり、校務分掌等について配慮する。

【6年目研修チーム】

- ・1年間を通じて校内で管理職を除いた3名以上(対象者を含む)のメンバーからなるチームで、対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。

チーム構成の例



研修内容

6年目をむかえた皆さんは、教師としての仕事もわかり、教育の情熱も高まってきていることでしょう。管理職や先輩・同僚から教えてもらうこともたくさんありますが、自らの資質能力を自分で高めていく研修（自己研鑽）が望まれます。また、後輩の相談相手になったり、アドバイスを与えたりすることも積極的に行いましょう。

《6年目研修ではどんなことをするの？》

6年目研修では、以下の2つの研修があります。

OJT研修

日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける。

■授業づくり[通年]

- ・課題研究
- ・課題研究発表(3回)[※]
構想発表・中間発表・最終発表
- ・授業研究(2回)

■校内授業研究会参加

Off-JT研修

日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける研修

■教育センター研修 [3.5日]

- ・集合研修 (1日)
- ・オンライン研修 (2日)
- ・オンデマンド研修 (0.5日)

※課題研究発表・・・学校の実態や発表内容等に応じて、全職員、学年部、6年目研修チーム、又は管理職等に対して発表を行う。



4月

教職経験6年目研修を受講することを確認する

- ・4月1日までに、自分が教職経験6年目研修受講対象者であることを確認し、校長に報告する。

教職経験6年目研修（教諭）についての事前調査に回答する

[メ切4/11(木)]

- ・「研修情報システム MyPage>各種ダウンロード>教職員研修の各種様式等をダウンロードする>教職経験6年目研修>教職経験6年目研修についての事前調査」のリンク先サイトから回答する。



- ・年間を通して研究する教科等を選択する。その際、自身の採用教科や授業の有無等を踏まえて決定する。PIIの留意事項をよく読む。
- ・第I回教育センター研修において、研究する教科等の第I回校内研究授業の単元（題材）構想を立てる。遅くともそれまでに、研究授業を行う単元等を決めておくこと。

4月～5月

6年目研修チームづくり

- ・1年間を通じて、管理職を除いた3名以上(対象者を含む)のメンバーからなるチームで対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。

[チーム編成の例]

(ア) 6年目研修対象者が最年少者の場合の
チーム編成

- ・幅広い年齢層でチームを編成し、それぞれの得意分野や経験からのアドバイスを受ける。

(イ) 中堅教諭等資質向上研修やフォローアップ研修等の対象者がいる場合の
チーム編成

- ・お互いの研修内容を関わらせながら、研修効果を高める。

(ウ) (ア)(イ)の混合チーム編成

- ・(ア)(イ)のよいところを取り入れ、チーム全体の資質能力の向上を図る。

(エ) 学校の課題解決(校内研究テーマの追究)に沿ったチーム編成

- ・学校の研究テーマとリンクさせ、6年目研修によって校内研究を深める。

など、学校や対象者の実態に応じたチームを編成する。



第Ⅰ回教育センター研修(オンライン研修)

- ・教育センター研修の期日、オンライン接続の方法を確認しておく。
- ・オンライン研修は自校等で行うため、1日の研修時間を設定する。その際、研修時間に校務(授業等)を割り当てない。(校内においては、出張と同様な対応をしてもらう)
- ・教育センター研修の2日前までに資料をダウンロードし、「授業づくり」グループ、担当指導主事、第Ⅱ回以降の教育センター研修の研修日を確認する。
- ・「授業づくり」で選択する教科の学習指導要領解説、教科書、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(文部科学省 国立教育政策研究所発刊)等を熟読しておく。
- ・研究する教科等の第Ⅰ回校内研究授業の単元(題材)を決めておく。



5月～6月

「課題研究構想メモ[様式1]」を作成する

- ・第Ⅰ回教育センター研修で説明された「課題研究の進め方」をもとに、課題研究構想メモ[様式1]を作成する。
※ 個人番号の欄は、第Ⅰ回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号を記入する(8桁の職員番号ではない)。
- ・シートを作成するにあたり、チームメンバー、ミドルリーダーや管理職等から指導・助言を受ける。

様式1 (仮) 課題研究構想メモ

身に付けた資質・能力を踏まえ、單元(題材)の目標に迫る探求ができる

教科等の見方・考え方の実践に関する実践 題目

学校名

個人番号・氏名

研究主題

研究の動機

研究の目的

研究内容

研究(実践)方法

検証方法

※本記研究「総合構想発表」における発表内容、チームメンバー及び管理職等からの指導・助言

課題研究の校内構想発表を行う

- ・取り組む課題研究について自分自身の理解を深めるため、また、1年間にわたりどのような課題研究を行うのかを校内の教職員に理解してもらうために、研究構想を職員会議等で説明する。
- ・説明する対象は、全教職員、学年部、教科部など、学校の実態に応じて決める。その際、少なくとも一人の管理職の出席があるようにする。
- ・発表の折に、1年間の研修に対する校内協力を依頼する。
- ・課題研究構想発表は遅くとも6月中旬までに行う。
- ・校内発表アンケート調査(「研修発表に関するアンケート」参照)を行い、今後の課題研究に生かす。



6月～7月

チームメンバー、ミドルリーダーや管理職等の指導・助言のもと、
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う(1回目)

- ・チームメンバー、ミドルリーダーや管理職等の指導・助言のもと、課題研究に基づく学習指導案(密案)を作成する。
- ・チームメンバーを含む複数教員で、学習指導案審議を行う。
- ・学習指導案審議をもとに学習指導案を修正する。
- ・チームメンバー、管理職、ミドルリーダー等を含む複数教員で、研究授業・研究協議を行う。
- ・学習指導案審議、研究授業、研究協議等の記録を残し、今後の課題研究に生かす。



課題研究構想メモ [様式1] を修正する

- ・課題研究の視点から、第1回校内授業研究の成果と課題を整理し、課題研究構想メモ[様式1]を修正する。
- ※課題研究等について、担当指導主事からのアドバイスを受けることができる。その際は、以下のことに留意する。
- ・アドバイスを受けた日時を、事前にメール・電話等で担当指導主事に予約する。
 - ・予約した日時に、担当指導主事に電話等をする。

課題研究構想メモ [様式1] 及び「学習指導案」(密案)を教育センターへ提出する
[メ切7/18(木)]

- ・校内授業研究会終了後、課題研究構想メモ[様式1]及び学習指導案(密案)をPDFファイルに変換して、教育センターへ提出する。



6月～8月

第Ⅱ回教育センター研修（オンデマンド研修）

- ・オンデマンド研修は自校等で行うため、半日程度の研修時間を設定する。その際、研修時間に校務（授業等）を割り当てない。（校内においては、出張と同様な対応をしてもらう）
- ・研修情報システム MyPage [研修動画] からオンデマンド動画を視聴する。
- ・オンデマンド動画については、年度内の校内研修で実施（計画も含む）されたものは、必ずしも視聴する必要はない。（「教育の情報化と ICT 活用実践紹介」は必修）



「オンデマンド研修」校内研修発表を行う

- ・視聴した複数のオンデマンド研修の中から1つを選び、校内発表資料を作成する。
- ・オンデマンド研修後、2週間程度以内に校内研修会等にて、研修内容の発表を行う。
- ・説明する対象は、全教職員、学年部、教科部など、学校の実態に応じて決める。その際、少なくとも一人の管理職の出席があること。
- ・6年目研修や中堅研の受講者が校内にいる場合は、協力して一つの発表をしてもよいし、それぞれが別々の発表をしてもよい。
- ・校内発表アンケート調査（「研修発表に関するアンケート」[参考様式3]参照）を行い、参加者からの評価を得る。
- ・校内研修会で用いた資料（PDFファイル）を、発表終了後1週間以内に、教育センターへ提出する。
- ・詳細は、第Ⅱ回教育センター研修実施要項を参照する。 [最終締切 9月19日(木)]

6月～8月

第2回校内研究授業に向けて、教材研究を行う

- ・普段の授業（課題研究実践）や第1回校内研究授業、教育センター研修で得たことを生かし、第2回校内研究授業に向けて構想を深める。
- ・研究教科等で目指す児童生徒等の姿を明確にしたり、実態についての資料収集・分析方法を研究したりする。
- ・学習指導要領解説、教科書、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料、これまでの研究実践等を読む（教材研究）。
- ・単元(題材)に関わる児童生徒の学習経験、生活経験やレディネスを収集する。
- ・単元(題材)の学習を通して、児童生徒に「どのような資質・能力を育てたいのか」を明確にする。
- ・第Ⅲ回教育センター研修までに、2回目の校内研究授業の単元(題材)について、「授業づくりのプロセス構想シート[様式2]」の①～⑨まで記入しておく(箇条書きでよい)。

※この「授業づくりのプロセス構想シート」を第Ⅲ回教育センター研修で使用する。

第Ⅲ回教育センター研修（集合研修）

- ・教育センター研修の期日、会場を確認しておく。
- ・提出された同グループの課題研究構想メモや1回目の校内研究授業の学習指導案等をダウンロードし、持参する。
- ・2回目の校内研究授業の「授業づくりのプロセス構想シート[様式2]」（①～⑨まで記入済みのもの）を持参する（グループの人数+指導主事の人数分）。

※詳細は、第Ⅲ回教育センター研修の実施要項を参照すること。



8月～11月

課題研究レポート（校内中間発表用）[参考様式1]を作成する

- ・第1回校内授業研究やこれまでの実践を踏まえ、課題研究レポート(中間発表用)[参考様式1]を作成する。

※研修に役立つ資料(P80)の「過去の課題研究レポート」を参照

※今年度のレポート形式は、枠罫線を省いています。

- ・当資料を作成するにあたり、チームメンバー等から指導・助言を受ける。

参考様式1 (抜粋)
令和〇年度教職経験6年目研修 課題研究レポート(中間発表用)
身に付けた資質能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名: _____ 担任(指導)・入会: _____ 研修者名(氏): _____

研究主題

- 1 研究の動機
- 2 研究の目的
- 3 研究仮説
- 4 研究の方法
- 5 これまでの成果と今後の課題

※ 印刷用紙は、印刷用紙を指定した印刷機で印刷してください。
※ 印刷用紙の裏面に記載の注意事項を必ずご確認ください。

課題研究の校内中間発表を行う

- ・作成した課題研究レポート(中間発表用)[参考様式1]をもとに、校内で課題研究中間発表を行う。
- ・中間発表は、チームメンバー、管理職、ミドルリーダー等を含む複数の教員または全教職員の前で行う。
- ・中間発表の進め方は、学校で創意工夫する。
- ・校内研修発表アンケート(「研修発表に関するアンケート[参考様式3]」参照)を行い、今後の課題研究に生かす。



教職経験6年目研修における実施状況についてのアンケートに回答する

- ・研修情報システム MyPage マイキャビネットに掲載のリンク先サイトから回答する(11月中旬掲載予定)。

- ・校内中間発表の実施日
- ・校内教員からのアドバイス
- ・今困っていること、指導主事に相談したこと

などについてのアンケートを実施します。



8月～1月

チームメンバー、管理職やミドルリーダー等の指導・助言のもと、
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う（2回目）

- ・これまでの実践、課題研究中間発表、校内研究授業・研究協議（授業研究会）への参加、チームメンバー、管理職やミドルリーダー等の指導・助言等から得たことを生かし、課題研究に基づく学習指導案（密案）を作成する。
- ・チームメンバーを含む複数教員で、学習指導案の審議を行う。
- ・学習指導案の審議をもとに学習指導案を修正する。
- ・チームメンバー、管理職、ミドルリーダー等を含む複数教員で、研究授業・研究協議を行う。
- ・学習指導案審議、研究授業、研究協議等の記録を残し、今後の課題研究に生かす。



12月～2月

課題研究レポート（成果発表用）[様式3]を作成し、教育センターへ提出する
[メ切1/23（木）]

- ・1年間の課題研究実践のまとめを課題研究レポート（成果発表用）[様式3]を使って作成する。
- ・レポートを作成するにあたり、チームメンバー、管理職やミドルリーダーから指導・助言を受ける。
- ・著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。
- ・「課題研究レポート」をPDFファイルに変換して、教育センターに提出する。

課題研究の校内成果発表を行う [2/21(金)までに]

- ・作成した「課題研究レポート」をもとに、校内で課題研究の校内成果発表を行う。
- ・成果発表は、チームメンバー、管理職等を含む複数の教員または全教職員の前で行う。
- ・成果発表の進め方は、学校で創意工夫する。

2月

第Ⅳ回教育センター研修（オンライン研修）

- ・オンライン研修の期日、時間を確認しておく。
- ・オンライン接続の方法を確認しておく。
- ・オンライン研修は自校等で行うため、1日の研修時間を設定する。その際、研修時間に校務（授業等）を割り当てない。（校内においては、出張と同様な対応をしてもらう）
- ・教育センター研修の2日前までに資料をダウンロードし、準備しておく。



教職経験6年目研修 報告書[様式4]を作成し、教育センターに提出する

[メ切 2/27(木)]

- ・「7 提出物、提出方法及び締切日」(P8)にしたがって、報告書等を提出する。
- ・対象者は、「報告書」「課題研究レポート(最終報告用)」、「学習指導案(密案1回分)」をそれぞれ別々のPDFファイルにして、校長に提出する。
- ・校長は、研修情報システム学校 Page の[報告書提出]からそれぞれ別々に提出する。

